



校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
令和2年2月28日

☎55-2260 第11号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた

心豊かでたくましい児童の育成



自分に影響を与えた人

1975年私は中学校3年生でした。5月21日から5月23日まで2泊3日の修学旅行でした。当時は特急列車に乗っての東京方面へ修学旅行です。途中、福島県あたりで落雷があり列車が遅れたのを記憶しています。そのため栃木県の日光東照宮だけを見て、東京のホテルでの1泊になりました。2日目は、羽田空港、東京タワーなどを見学し後楽園遊園地で遊び、そして後楽園球場でのナイターの試合を見ました。私は中学校では、野球部に所属していたのでナイターの試合が一番の楽しみでした。試合は南海ホークスと日本ハムとの試合でした。私たちは一塁側の内野席上部で観戦していました。そして運命の瞬間を見ることになりました。そうです。南海の野村克也選手が600号ホームランを打ったのでした。レフト中斷にライナーで飛び込むホームランでした。私は、興奮のあまり鼻血を出して観戦していました。当時は、巨人の王選手や長島選手にあこがれている子供たちが多く、野村選手のファンは少なかったと思います。事実それまで私も王選手が好きでした。しかしこの日から私は野村克也選手が好きになりました。同じ名前「かつや」で惹かれたのもあるでしょう。修学旅行から帰ってきてすぐさま新聞に載っている野村選手の600号ホームランを打った記事を切り抜き部屋に飾りました。

野球でもキャッチャーができるように練習しました。そして野村克也氏の野球哲学を学んできました。選手時代の功績、監督時代の功績は素晴らしく、さらに解説等はとても楽しみでした。特に、楽天の監督になってからは、仙台に試合を見に行く回数が増えたように感じました。

みんなで、愛されたその野村克也氏が先日亡くなられ、野球の世界だけでなく世の中に大きな影響を残した方だと改めて感じさせられました。

600号ホームランを打った試合後のインタビューでは、「自分をこれまで支えてきたのは、王や長嶋がいてくれたからだと思う。彼らは常に、人の目の前で華々しい野球をやり、こっちは人の目のふれない場所で寂しくやってきた。悔しい思いもしたが、花の中にだってヒマワリもあれば、人目につかない所でひっそりと咲く月見草もある」は、野村克也氏の反骨精神がしっかり表れていて、なぜか我々に元気を与えてくれた言葉のように思います。

野村克也氏が書いた本に「野村ノート」があります。その中で「恥」についての語録があります。「人は恥をかかなければ成長しない、恥をかくことで成長する。だから自分は多くの場面で恥をかいてきた」それを表すエピソードがヤクルトの監督時代にあります。それを紹介します。エラーをした選手がベンチに戻ってくると「ドンマイ、気にするな」という声がかかりました。それを聞いた野村は烈火のごとく怒ったそうです。プロならば失敗を「恥ずかしい」と思わなければならない。失敗を恐れてはいけませんが、それを恥と思わなければ、また同じ失敗を繰り返す。以来、「ドンマイ」は禁句となったということです。この言葉は自分にとって大きな支えになりました。

他にも教員としてこうなりたいなあという格言があります「財を残すは下、仕事(業)を残すは中、人を残すを上とす」という格言です。これは後藤新平によるとされる格言ですが野村克也氏は信条としていたことです。野村克也氏の考えは、今後も野球以外にも人それぞれの人生に生き続けると思われます。